



(広瀬式) **二期比較貸借対照表**
～心をかたちに！～

科目名	前期		当期			
	〇年〇月〇日現在	構成比	〇年〇月〇日現在	構成比	増減額	前年比率
資産の部	流動資産					
	固定資産					
資産合計		100.0%		100.0%		
負債の部	流動負債					
	固定負債					
負債合計						
純資産の部	資本金					
	繰越利益剰余金					
	純資産合計					
負債・純資産合計		100.0%		100.0%		

※自己資本比率は、中身を見る！

貸借対照表

～どの山に登るのか！～

資産の部		負債及び純資産の部	
科目	金額	科目	金額
		負債合計	
		純資産合計	
合計		合計	

※儲かったお金は、どこにあるのか！

心をかたちに！

貸借対照表は、企業の経営活動の歴史の蓄積です。その中には、経営者の過去の意志決定と心の迷いが蓄積されています。筋肉質経営を目指してきたのか、バブル経営であったのか、キャッシュベース経営であったのか、借金経営であったのか等です。その貸借対照表のかたちには、自らの心が反映されています。かたちを変えていくには、経営者の強い意志が必要となります。

自己資本比率は、中身を見る！

自己資本比率とは、純資産合計を資産合計で除した率です。貸借対照表は、決算の一時点の数字を表わしたものであり、その数字は日々変化しています。当然ながら企業にとって、自己資本比率は高いほど安定性を示します。しかし、その安定性とは、企業経営で何かを考えねばなりません。現金がたくさんあれば良いのか、在庫はどの位か、債権は多くないのか、不動産は必要かなどです。比率が上がった事に喜んではいけません。

どの山に登るのか！

事業の大小にかかわらず、なぜ、この事業を行うのかという目的が、明確になっていなくてはなりません。また、その目的には一緒に働く社員が、心から受け入れてくれるような公明正大な大義名分が必要です。経営理念をかざし、どこまでやると言うビジョン（事業構想）をかざさなければ、社員はついてくることもありません。場当りの経営では、登るべく頂上を見ずに歩いているようなものです。経営理念とビジョンを示すことにより、全社員のモチベーション（意欲）が高まるのです。

儲かったお金は、どうなっているのか！

会社は年度末を区切りとして、その年度の業績を出します。しかし、会計上は利益が出たとしても、その分のキャッシュが、手元にあるとは限らないのです。その理由は、利益は現金以外にも、在庫に形を変えていたり、新規設備の購入にあてられていたり、売掛金となっていたりと、さまざまなところに散らばっているからです。しかし、経営ベースとなるのは、手元のキャッシュなのです。それを増やすために在庫は最小限に抑え、新規設備は早急に生産販売に結びつけ、売掛金は早急に回収するなどの努力をすることが重要です。「儲かったお金はどこにあるのか」を考え、手元のキャッシュを増やすよう努力していくことが、キャッシュをベースとして経営していく前提となるのです。